

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和 7 年度病虫害発生予報第 8 号 (11 月) について

このことについて、病虫害発生予報第 8 号を発表したので送付します。

予報第 8 号

11 月における主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病虫害名	現 況 (発生量)	11 月の発生予報 (発生量)	
		平年比	平年比	前年比
イチゴ	うどんこ病	やや少	やや少	並
	炭疽病	多	多	多
	ハダニ類	少	やや少	やや少
冬春ナス	灰色かび病	やや多	やや多	やや多
	すすかび病	並	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	多	多	多
冬レタス	灰色かび病	並	並	並
	菌核病	並	並	並
冬キャベツ	黒腐病	並	並	並
	菌核病	並	並	並
	コナガ	やや多	やや多	やや多
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや少	やや少	やや少
	オオタバコガ	並 ^{注3)}	並 ^{注3)}	やや少
	コナジラミ類	並 ^{注3)}	やや多 ^{注3)}	やや多

注 1) 予報の発生量は平年（福岡県の過去 10 年間）及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。

注 2) 予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病虫害の発生条件を必要に応じて記載しています。

それぞれの条件は、少発生（－）、やや少発生（－～±）、並発生（±）、やや多発生（±～＋）、多発生（＋）として示し、＋を総合的に判断して発生量を予想しています。

注 3) 野菜共通のオオタバコガおよびコナジラミ類において、調査年が 10 年に満たない場合は調査地点の調査開始年～2024 年までの平均値を平年としています。

<予想される向こう1か月の天候（令和7年11月1日～11月30日）>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。

低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間（数値は予想される出現確率）

九州北部地方	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低10 並30 高60% 平年より高い見込み	少20 並40 多40% 平年並か多い見込み	少40 並30 多30% ほぼ平年並の見込み

（福岡管区气象台 令和7年10月30日発表1か月予報より抜粋）

病害虫防除所のホームページでは、各種病害虫の発生状況を随時更新しています。
発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病害虫防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuoka-bouzyosyo.html>
または右QRコード①

①⇒



○X（旧Twitter）で定期情報や注意報等発出のお知らせをしています。

Xの本アカウント（福岡県農作物病害虫情報）へのアクセス

URL: https://x.com/PPDPO_Fukuoka または右QRコード②

②⇒



【野菜：イチゴ】

1 うどんこ病

（1）予報の内容

発生量：平年よりやや少・前年並

（2）予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（－～±）。

発病株率 0%（平年 0.3%、前年 0%）

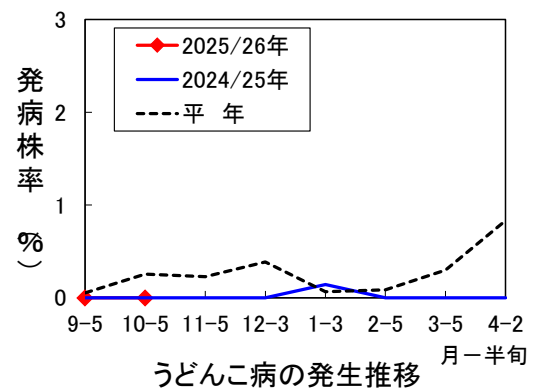
イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている（±）。

（3）防除上注意すべき事項

ア 不要な下葉は早めに除去する。薬剤防除は下葉かぎ後に行うと効果的であり、薬液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

イ ビニル被覆後は発生が多くなるため、被覆前までに重点的に防除を行う。なお、薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

ウ 農薬の使用および散布等にあたっては、最終頁の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



2 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+)。

発病株率 0.65% (平年 0.18%、前年 0.1%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

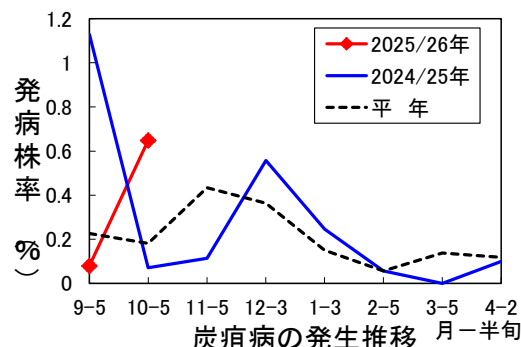
ア 炭疽病が発生した育苗ほの苗は、無病徴でも潜在感染のおそれがあるため、定植後の発生状況に気を配り、発病株の早期発見・早期除去に努める。

イ 発病株は、残渣を残さずに周囲の土ごと掘り取り、速やかにほ場外に持ち出し処分する。

ウ 하우스内の排水を図り、多湿にならないようにする。

エ 来季に向けた対策として、炭疽病の発生が少ない育苗ほの苗を親株とし、親株に対する防除を徹底する。

オ 炭疽病が多発している等、親株用の苗に潜在感染の恐れがある場合、天井ビニル被覆後に発生する秋ランナーからの採苗等で健全な親株の確保に努める。



3 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

寄生株率 0% (平年 6.1%、前年 3.3%)

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている(±~+)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ビニル被覆後は発生が多くなるため、被覆までに重点的に防除を行い、初期密度を低下させる。

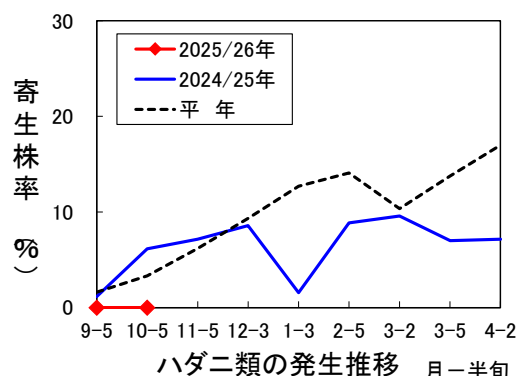
イ 薬剤感受性の低下を防ぐため、気門封鎖剤も利用し、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

ウ ハダニ類に登録のある薬剤の多くは浸透移行性が乏しいため、葉裏に薬液が十分付着するよう防除を行う。マルチ被覆時の摘葉後に、防除を行うと効果的である。

エ 化学薬剤だけでは防除が困難であるため、天敵を利用した総合的防除を積極的に実施する。
 <県ホームページ掲載の「令和7年度版病害虫・雑草防除の手引き」-「IPMの推進」-「イチゴのIPMマニュアル」参照>

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/bojonotebiki.html>

オ 親株用の苗や補植用の余り苗についても防除を怠らない。



【野菜：冬春ナス】

1 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

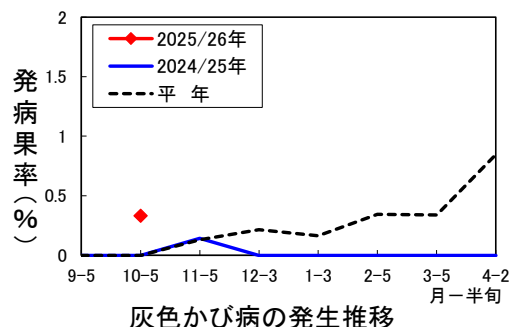
(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(±~+)。

発病果率 0.3% (平年 0%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている(±~+)。

(3) 防除上注意すべき事項



- ア 発病果・発病葉は見つけ次第速やかに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- イ 不要な枝葉は除去・処分し、通風、採光をよくする。
- ウ 多湿にならないように換気に注意するとともに、ほ場の排水対策を心掛ける。
- エ 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。
- オ 同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 すずかび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 0% (平年 0.5%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病葉は見つけ次第速やかに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。

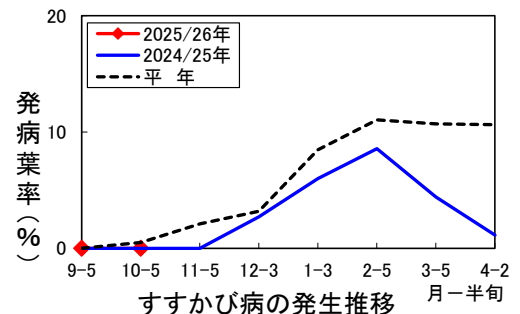
イ 樹勢が低下すると発病が助長されるため、樹勢が低下しないような肥培管理に努める。

ウ 不要な枝葉は除去・処分し、通風、採光をよくする。

エ 多湿にならないように換気に注意するとともに、ほ場の排水対策も心掛ける。

オ 病勢が進展すると防除が困難となるため、初期防除を徹底する。

カ 同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



3 ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+).

寄生葉率 11.4% (平年 3.2%、前年 2.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている(±~+).

(3) 防除上注意すべき事項

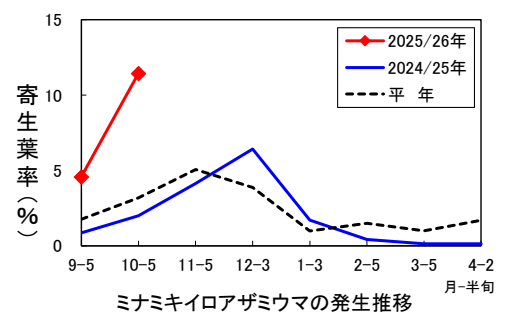
ア ほ場内や周辺の雑草は増殖の場となるので、除草を徹底する。

イ 防虫ネットを展張し、定期的な薬剤散布を実施する。

ウ 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、発生初期の防除を徹底する。

エ 同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

オ 化学薬剤だけでは防除が困難であるため、天敵を利用した総合的防除を積極的に実施する。



【野菜：冬レタス】

1 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

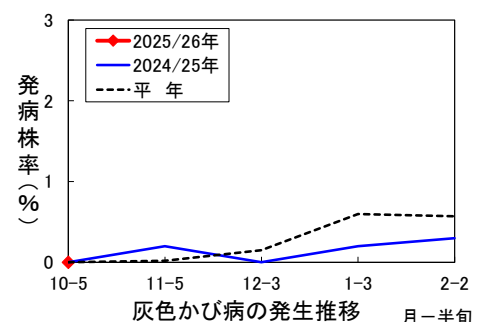
ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病株率 0% (平年 0%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病茎葉は見つけ次第速やかに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。



- イ 予防散布に努める。
- ウ 同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 菌核病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病株率 0% (平年 0%、前年 0%)

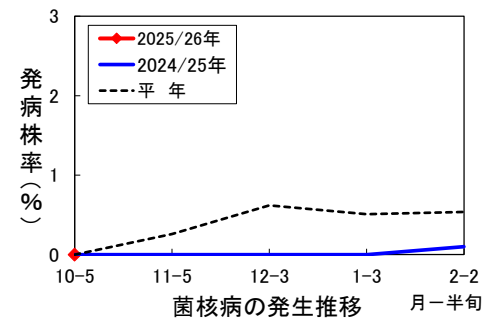
イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株は、菌核を作らないうちに土ごと抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。

イ 薬剤は株元にかかるよう丁寧に散布する。

ウ 同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



【野菜：冬キャベツ】

1 黒腐病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病株率 0% (平年 0%、前年 0%)

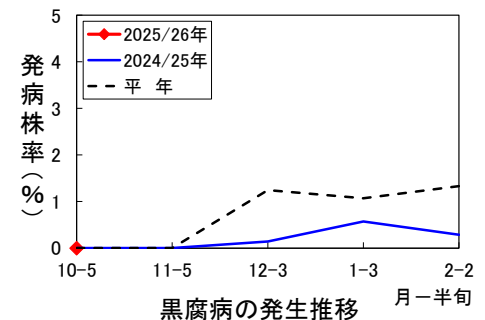
イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病茎葉は見つけ次第速やかに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。

イ 予防散布に努める。

ウ 同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



2 菌核病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病株率 0% (平年 0%、前年 0%)

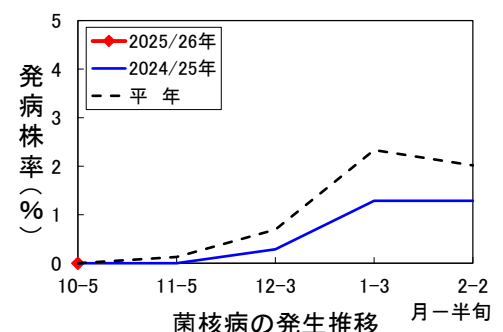
イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株は、菌核を作らないうちに土ごと抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。

イ 薬剤は株元にかかるよう丁寧に散布する。

ウ 同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



3 コナガ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった（±～+）。

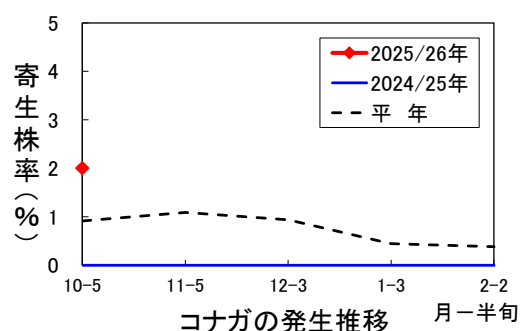
寄生株率 2.0%（平年 0.9%、前年 0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～+）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア アブラナ科雑草は本虫の発生源となるため、ほ場周辺の除草を徹底する。

イ 一部の薬剤で感受性の低下が見られるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



【野菜共通】

1 ハスモンヨトウ

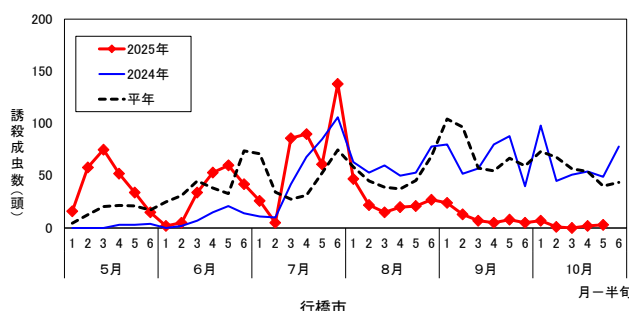
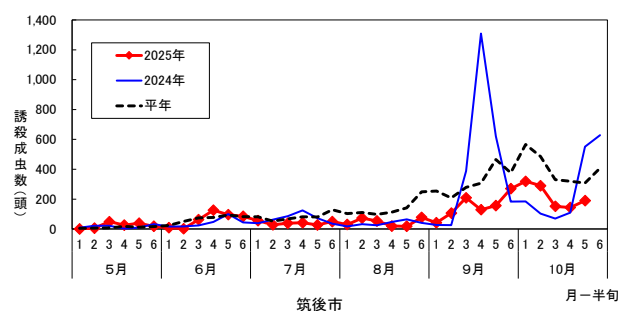
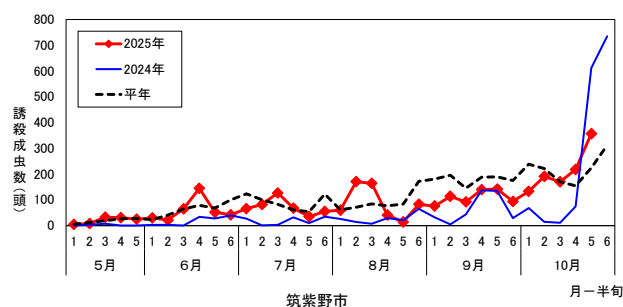
(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬～10月5半旬のフェロモントラップにおける誘殺虫数は地域により差はあるが、おおむね平年よりやや少なく推移した（－～±）。

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～+）。



フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺虫数の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 地域によって発生量に差があるため、ほ場の発生状況に注意し、発生を確認したら直ちに防除を行う。

イ 薬剤防除は若齢幼虫を対象に実施する。

ウ 一部の薬剤においては、薬剤感受性の低下が懸念されることから、薬剤の選定に留意する。

また、同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 今後の発生状況については、病虫害防除所のホームページを参照する。（以下の害虫についても同様）

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuoka-bouzyosyo-doukou.html#daizu-yasai>

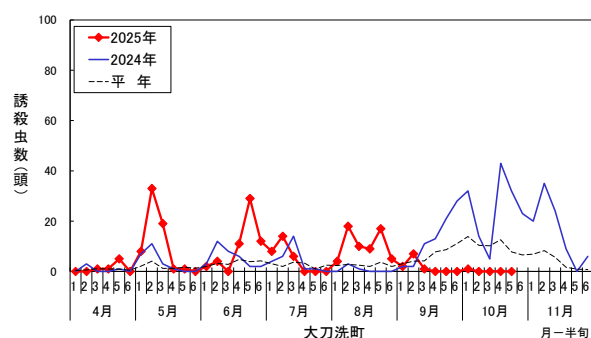
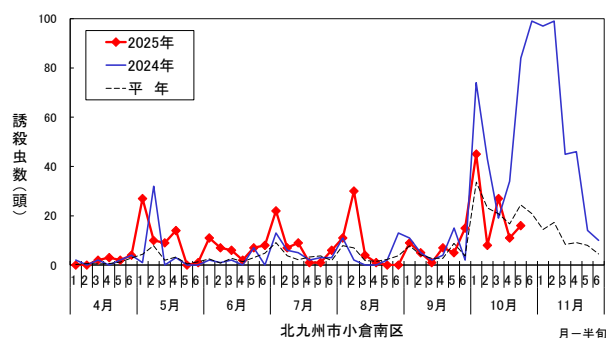
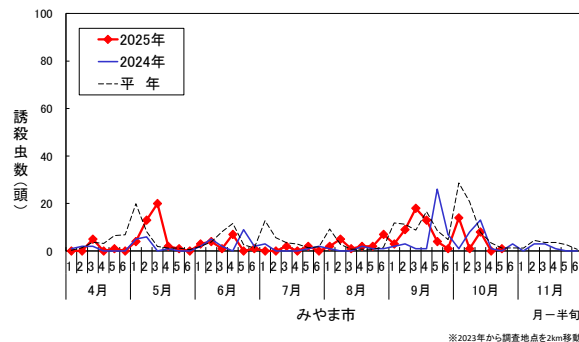
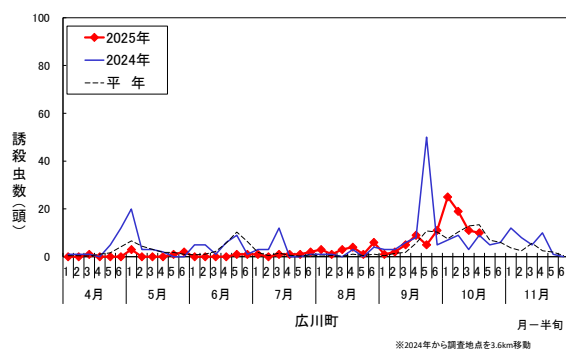
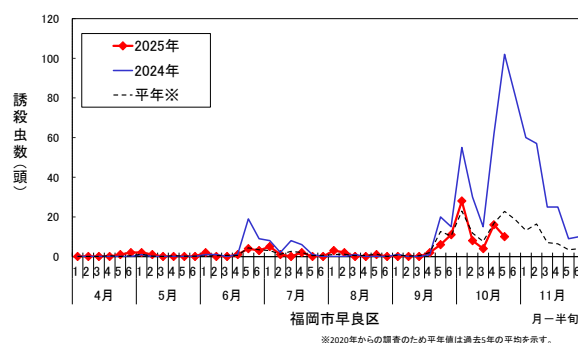
2 オオタバコガ

(1) 予報の内容

発生量：平年並・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

- ア 9月5半旬～10月4半旬のフェロモントラップにおける誘殺虫数は地域により差はあるが、おおむね平年並で推移した（±）。
 イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～+）。



フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺虫数の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 地域によって発生量に差があるため、ほ場の発生状況に注意し、発生を確認したら直ちに防除を行う。
 イ 薬剤防除は若齢幼虫を対象に実施する。
 ウ 同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

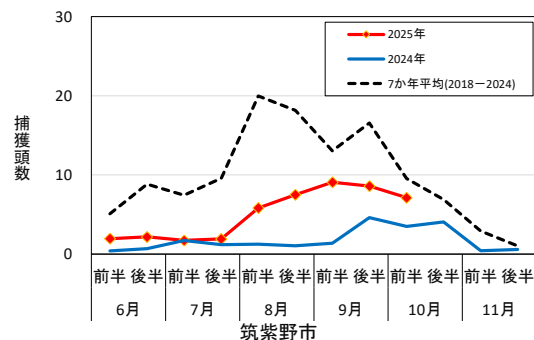
3 コナジラミ類

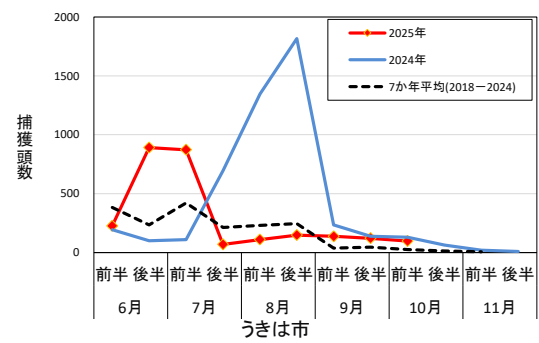
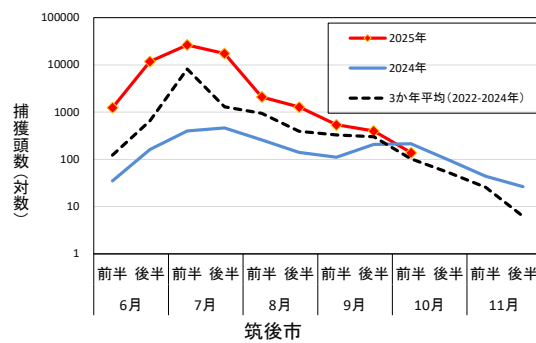
(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

- ア 9月後半～10月前半の粘着板トラップにおける捕獲虫数は地域により差はあるが、おおむね平年並で推移した（±）。
 イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～+）。





黄色粘着板におけるコナジラミ類の誘殺虫数の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 施設内への成虫の飛び込みを防止するため、防虫ネットの目合いは0.4mm以下にする。
- イ 施設内側に黄色粘着シートを設置するなど発生状況を把握し、発生を確認したら、薬剤防除を行う。
- ウ ほ場内や周辺の雑草は増殖の場となるので、除草を徹底する。

農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、農薬適正使用の指導を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。使用者の安全はもちろん、周囲の人畜・隣接作物・河川等への配慮についてもおご指導をお願いします。

1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

○有効期限切れの農薬は使用せずに、産業廃棄物として処分する。

2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフト低減ノズルを使用する。

○散布は場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

○農薬散布の実施において、周囲の生産者、住民に周知を図る。

3 保護具の着用

○農薬の散布前に、ラベルの注意・警告マークをよく確認する。マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用し、薬液を作成する。

4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄し、残液はほ場外への流出や環境や後作に影響を与えないよう配慮して、ほ場内の農作物が植え付けされていない土壌にまく。

5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

6 空容器の処分

○空容器は、地域の農業用廃プラスチック適正処理推進協議会が実施する回収や、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。また、野焼きは『廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）』で禁止されているので、絶対に行わない。